全国障害者問題研究会の研究誌

障害者問題研究

第 50 巻 第３号

Vol.50
No. 3

特集 障害者の防災・災害福祉の到達点

障害者問題研究 50 巻 3 号を読む会

■話題提供■

●**新井利民**さん（立正大学）
障害のある人々に対する避難支援政策の展開と課題

●**内山智裕**さん（けやきの郷）
障害者支援施設の利用者・職員が適切な避難行動を実現するために

■参加者の意見交流■

日時　１２月１６日（金）19 時～21 時

■zoom ミーティングによる開催

〇参加費無料。お手元に当該号をご用意ください。
〇読む会参加申し込みフォーム（右）から注文できます。

お申し込み

https://forms.gle/oBoGoAZzNdFXLanG9

問い合わせ　全障研事務局　info@nginet.or.jp

特集にあたって

井原哲人（本誌編集委員）

『令和 2 年版国土交通白書』(p.50)によれば，「洪水や土砂災害を引き起こす大雨や短時間強雨の回数」，土砂災害についても年平均の発生件数は増加傾向にある．また，「防災に関して取った措置の状況　令和 4 年度の防災に関する計画」によれば，2020 年発生災害による厚生施設関係(社会福祉施設，水道施設等)の被害額は約 320 億円である．災害対策基本法が 2021 年に改正され，BCP(事業継続計画)は 2024 年からは全ての障害福祉サービス等事業者に計画の策定等が義務付けられる等の取り組みが進められている．

災害に対して，いかに備え，その後の生活や活動の困難を軽減することができるのか．本特集では，現場で進められている防災・災害福祉の取り組みから，到達点及び今後の課題を提起する．

後藤論文では，BCP 策定の取り組み等，障害者福祉施設における BCP 策定上の課題（避難するタイミング，他機関等との連携，避難先の選考等）を踏まえ，実証訓練の実施の必要性が提起される．また，利用者の避難に関する課題（避難生活における障害当事者を含む施設・関連団体の支援等）から当事者の主体性を尊重した体制の確保の必要性が提起される．その他，障害者の避難生活に関する課題を踏まえて，災害時を日常との連続性でとらえ，一般住民層への対策とともに有機的に連携していくことが重要であるとしている．

白神論文では，特別支援学校における取り組みをもとに，近隣での被害を契機とした問題意識の醸成からタイムラインの作成，訓練実施を経た見直し等，児童・生徒における防災の取り組みの工夫が紹介される．そのうえで，学校間の連携，複数の専門家の協力，日常の教育活動への位置づけ等のポイントが示される．

新井論文では，災害対策基本法改正までの政策の変遷と到達点が確認され，個別避難計画の策定には多様な主体の参加，連携が必要であるものの，その取り組みが十分なものになっていないことが明らかにされる．そこで，避難支援政策を実効性あるものとするための課題として，地方自治体や地域関係

者の役割，障害者や家族を中心としつつ多様な主体の体制づくりが必要であるとする．ただし，障害者や家族，関係機関・事業所が連携し，取り組みを進めていくためにも，国や地方自治体の公の役割が重要であると指摘される．

内山報告では，台風災害による避難確保に携わった職員の証言や記録をもとに，避難にあたる職員の動向の要因が分析される．大野報告では，きょうされんの災害対策プロジェクトチームが取り組んだ5つの企画をもとに，被災を風化させない取り組みから防災へと接続する必要性が提起される．金野報告では，医療的ケア児家族の当事者団体の被災時に優先度の高い停電対策への取り組みを中心として紹介される．北岡報告では，特別支援学校の児童・生徒の防災映画制作を通した主体的な防災への取り組みが紹介される．河原報告は，被災後に再建した事業所での防災学習を通した意識づくりが報告される．

これらが参考にされ，防災・災害福祉の取り組みに生かされれば幸甚である．

（いはら　あきひと　白梅学園大学）

■この号のもくじ■

特集にあたって　井原哲人　1
障害福祉施設における防災福祉の取り組み●後藤至功　2
特別支援学校における防災管理および防災教育の課題と取り組み●白神晃子　10
障害のある人々に対する避難支援政策の展開と課題●新井利民　18
実践報告
障害者支援施設の利用者・職員が適切な避難行動を実現するために●内山智裕　26
きょうされん災害対策プロジェクトチームの結成の経緯と実際の取り組み●大野健志　33
医療的ケア児家族による防災・減災対策の試みと今後の課題について●金野大　38
知的障害のある生徒が発信する防災教育●北岡大輔　44
仲間とともに学ぶ防災●河原京子　47
連載　実践に学ぶ
特別支援学校小学部の実践　だれかを“すき”になるということ　岡田徹也　50
【岡田実践に学ぶ】中村隆一　56
乳幼児療育の実践　障害の重い子どもの療育にたずさわる保育士として出会いの中で学びたいせつにしてきたこと　塩見陽子　58
【塩見実践に学ぶ】南　有紀　65
連載　ワイドアングル
キャリア教育の20年――成立期に刻印された問題性とその後　児美川孝一郎　67
動向　こども家庭庁創設の背景と子ども施策の特徴　中村尚子　74
コロナ禍での障害者・家族の経験　田中智子　76

●読む会へのおさそい●

地震災害や水害など、いつどこでも起こりうる災害。障害児者・家族や支援する施設や事業所、学校もその被害を免れることができません。近年、地域福祉のなかに災害福祉が書き込まれ、防災・減災のための計画や地域連携も求められています。しかして、その実態はどうでしょうか。自治体や地域コミュニティにおいて障害児者が取り残されることがない取り組みが必要です。障害のある人が隅に追いやられることなく、「助けてやる」と無理やり引き回されるのでもなく、社会の成員として尊重されつつ、いのちを守り暮らしの継続がはかられ「発達と権利」が貫かれる、そんな災害福祉をどのようにつくりあげることができるでしょうか。

障害のある人のいのちを守る…じゅうぶんではない条件下で、その重みを一身に背負わざるを得ない厳しい経験からも学び、ここから何を始め、何を積み重ねるかを、特集を読みながら考えあいましょう。

多様な立場からの参加をお待ちしています。

●読む会は、現在リモートで行っています。

『障害者問題研究』は、全障研の研究誌として、毎号、特集はじめ発達保障実践を深めていくための記事を掲載しています。読む会では、全国各地から、教員・療育・成人分野・当事者・家族などさまざまな立場、職種がひとつの場に集い、学び合い、語り合います。

お求めは

全障研出版部
新宿区西早稲田 2－15－10 西早稲田関口ビル 4 階
電話（03）5285－2601・FAX（03）5285－2603・nginet.or.jp